

令和8年度 佐久市総合計画審議会第3部会（第1回） 議事録

日時：令和8年5月22日（金）
午前10時10分～11時30分
場所：佐久市役所議会棟 第4委員会室

【出席者】重野部会長、小林副部会長、坂江委員、堤委員、坂戸委員、
中嶋委員、須江委員、山澤委員、東城委員

【事務局】小林企画調整係長、大塚主任、井出(頭)主任

○協議事項等

次第

1 開会

- ・部会長挨拶
- ・欠席委員報告（今井委員、松崎委員、麻生委員）

2 議事

- (1) 第三次佐久市総合計画骨子案について
質疑、意見

部会長	議題の(1)「第三次佐久市総合計画骨子案について」事務局から説明をお願いする。
事務局	第三次佐久市総合計画骨子案について(第5章) 《資料1-2に基づき説明》
部会長	事務局から説明があったが、御意見・御質問はあるか。
委員	地球温暖化対策の現状と課題に記載されている「ZEV」とは何か。
事務局	「ZEV」は、ゼロ・エミッション・ビークルを指す。二酸化炭素を排出しない電気自動車や燃料電池自動車などのことである。分かりにくい用語については、注釈を入れるよう対応する。
部会長	他に意見・質問はないか。
委員	(なし)
部会長	続いて、第3章について、事務局から説明をお願いする。

事務局	<p>第三次佐久市総合計画骨子案について（第4章） 《資料1-2に基づき説明》</p>
部会長	<p>事務局から説明があったが、御意見・御質問はあるか。</p>
委員	<p>健康増進に関して、歯の健康が全身の健康に及ぼす影響を重視する必要がある。小中学校では歯科検診が行われていると思うが、その後、こどもたちが必要な治療につながっているのか、治療に行けない場合にはどのような事情があるのかを把握する必要がある。痛くなってから歯科に行くのではなく、定期的な検診やケアにつながる仕組みを、教育の場面も含めて考えるべきである。</p> <p>また、保健予防のフレイル対策について、地区で専門家による出前講座を実施した際、口腔機能の衰えがフレイルの進行に関係することが分かりやすく説明された。住民側から依頼があった場合だけでなく、市からより積極的に高齢者へ働きかける取組が必要である。</p> <p>さらに、医療についてだが、高齢化により医療費が増加し、国民健康保険料の負担が重くなっている。保険料を支払うことが困難な人も出てくると考えられるため、負担軽減についても検討してほしい。</p> <p>障がい者福祉については、ライフステージが変わっても切れ目のない支援を行うとされているが、具体的にどのように実現するのが重要である。小学校から中学校、中学校から高校、就職や福祉的就労へ進む段階で、保護者がその段階で初めて困るのではなく、早い段階から将来を見通した支援を行ってほしい。</p>
事務局	<p>各政策について貴重な意見をいただいた。現在示しているものは総合計画の骨子案であり、基本構想で示した基本理念や将来像を踏まえ、各政策・施策の方向性を整理している段階である。具体的にどのような取組を行うかは、現段階ではまだ盛り込んでいない。</p> <p>今後、第3部会において具体的な取組内容を示し、改めて審議いただく予定である。今回の意見を踏まえ、具体的な取組の検討を進める。</p>
委員	<p>フレイル予防やライフステージに応じた支援は、特定の課だけで完結するものではなく、複数の課が関わる課題である。所管が決まるとその課だけが中心となりがちだが、フレイル予防は生涯現役や人手不足など様々なところにも関係する。関係する課が共有し、一体的に方向性を見出し</p>

事務局	<p>て取り組むことが必要である。</p> <p>福祉分野では、重層的な支援の観点が重要になっている。例えば高齢者の課題であっても、その背景には複数の部署が関係する課題がある。市としても重層的な支援を進める体制を構築している。いただいた視点は重要であり、具体的な取組の中でも示していけるよう検討する。</p>
委員	<p>医療の資料において、市内の医師、歯科医師、看護師等の数は少しずつ増えている一方、助産師だけが平成30年から令和4年にかけて減少しているように見える。定年退職によるものなのか、養成機関や担い手の減少によるものなのか、原因が分かれば教えてほしい。</p>
事務局	<p>助産師の減少理由については現時点で把握していないため、医療担当部署に確認し、別途回答する。</p>
委員	<p>子育て支援・児童福祉に関して、保育士などの有資格者だけでなく、子育てに関心のある幅広い世代の人材が子育て支援の担い手として活躍できる仕組みを構築する必要があるとされている。</p> <p>佐久市で実施された子育て支援員研修について、一般公募の枠が限られていたと聞いている。実際には受講希望者が多かったにもかかわらず、あらかじめ一定の枠が確保され、残りのみが一般公募となっていたのであれば、幅広い世代に届いていないことになる。こどものために活動したい高齢者もいるため、意欲のある人が活躍できる仕組みにしてほしい。</p>
事務局	<p>子育て支援員研修は昨年度から始めている。新たに野沢に子育て支援拠点施設ができ、有資格者が業務にあたる中で、そういった研修を受講させたいという考えがあり、市職員や会計年度任用職員が受講する部分もあった。一方で、子育て支援の担い手が確保しにくくなっている中、保育士等の資格がない人にも携わってもらう趣旨でも実施している。</p> <p>いただいた意見は担当課と共有し、意欲のある人が活躍できる仕組みにしていけるよう検討する。県でも子育て支援員研修を実施しているが、市としても県とは別に取り組んでいる。</p>

部会長	<p>学校においても、教員だけでは十分に対応できない部分があり、支援員の協力が必要になっている。資格がなくても手伝える人に協力してもらえるよう、市や教育委員会の方で費用をなるべく捻出する形で行ってほしい。</p> <p>また、少子高齢化について、かつては子どもや若い世代が多く、高齢者を支える構造に大きな不安はなかったが、現在は人口構造が逆転している。医療費や介護、看護人材の不足などを考えると、高齢者が安心して生活できる体制づくりが必要である。若い世代に全てを負担させることは難しく、行政としても適切な舵取りが求められる。</p>
委員	<p>人口減少については、自治体単独で解決できる問題ではない。大都市や地域の中核都市に人口が集まり、それ以外の地域では児童数が減少している。東京一極集中を含め、国全体で考えるべき課題であり、地方自治体としても国に対して一極集中の是正を求めていく必要があるのではないかと。</p>
部会長	<p>佐久市内でも一極集中の傾向がある。佐久平周辺では児童生徒が多く、教室が不足するような状況がある一方、他地域では生徒数が大きく減少している。全国では東京一極集中が課題であり、市内でも同様に地域ごとの差が生じている。こういったことについても総合的に考えていく必要がある。</p>
委員	<p>問題の根源には家族構成の変化があるのではないかと。親世代と子ども世代が分離し、家族内のつながりが薄れている。子育て支援を充実させることも重要だが、それだけでは家族のつながりが弱まる可能性もある。今回の計画にも家族構成については記載がないが、今後はそういった政策も必要ではないかと。</p> <p>また、地域開発にも関係しており、便利な場所に集中するだけでなく、周辺部にも手を入れていくことが必要である。</p>
事務局	<p>一極集中については、国全体では東京一極集中の是正が大きな課題として位置付けられ、地方創生の取組が始まった。しかし、10年が経過しても十分に是正されておらず、少子化にも歯止めがかかっていない。国では地方創生の考え方を新たな段階へ進めている。</p> <p>一方、少子化については、急激に回復することは現実的に難しく、ある程度受け止めた上で、持続できる国や地方</p>

<p>部会長</p>	<p>をつくる必要があるという考え方に変わってきている。佐久市としても、少子化の流れを受け止めた上で、今後 10 年間、持続的で活力あるまちにするための取組を考える必要がある。</p> <p>高齢化が進み、これまで複数人で 1 人を支えていた社会保障の構造が変化している中で、制度や地域の支え方をどう維持していくかという観点が必要である。次回以降、具体的な取組を検討する際にも、こうした視点から意見をいただきたい。</p> <p>民生委員として地域を見てみると、高齢者だけの世帯が多い地域がある。若い世代が新たな住宅地へ移り、高齢者だけが残っている。元気なうちは若い人と同居することを望まない高齢者もあり、昔のような家族制度を前提とすることは難しい。</p> <p>また、商店なども人口が減った地域では成り立ちにくく、佐久平といった地域へ商店が集まることは避けがたい面もある。</p> <p>そういったことへの上手い舵取りの方策を審議会で考えていきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>佐久平駅周辺への集中は、佐久市にとって大きな課題の一つである。一方で、人口減少が進む中、佐久平駅周辺が人口の社会増の受け皿になっていることも事実である。佐久市全体の人口は減少しているが、社会増は一定程度続いており、県内でも高い水準にある。</p> <p>一方で、周辺地域の活力低下は大きな課題である。佐久平駅周辺は利便性が高く、行政が集めているというより、民間開発や住宅建設が自然に集まっている部分がある。行政としては、野沢地域を子育ての拠点として暮らしやすいまちにしていく意味合いも込めて、子育て支援拠点施設や周辺広場の整備を進めている。市全体のバランスを考え、佐久市全体が活力を持ち続けられる政策を検討していく。</p>
<p>委員</p>	<p>人手不足と言われるが、佐久市で仕事を探したい人が全員就職できているのか、できていないのかが分かりにくい。仕事に就けない人がいるとすれば、賃金水準が低いことも要因ではないか。介護の仕事などは、働きに対して賃金が低いと若い人が入ってきにくい。</p> <p>企業誘致についても、都市部の企業が佐久市に来るのであれば、都市部と同様の賃金水準を出すことも考えられる。市内の給与水準が上がれば状況は変わるのではない</p>

事務局	<p>か。市がどこまで対応できるかは難しいが、検討してほしい。</p> <p>人手不足は佐久市においても大きな課題であり、産業界からも、あらゆる産業で人材が足りないとの声がある。企業誘致については、市内企業からは、これ以上誘致してほしくないという意見もある。市内企業自身が人材を必要としているため、新たな企業が来ると人材の奪い合いになるためである。</p> <p>そのため、これまでのように多くの企業を誘致する考え方から、既存企業が事業継続できるアプローチへ変わってきている。ただし、全く誘致しないということではなく、地域の活力につながる企業や、地域の特色を生かして伸ばしていける企業に絞って取り組む必要がある。</p> <p>医療福祉分野でも人手不足は深刻であり、介護分野では賃金水準や処遇の改善が課題である。佐久市には佐久大学など看護人材や福祉人材を育成する機関があるため、そうした人材が地元に着住する政策も考えている。人材不足は市内のあらゆる分野に共通する課題であり、知恵を絞って対応する必要がある。</p>
部会長	<p>予定時間も近づいているため、いったん質疑を終了するが、他に聞きたいことがあれば事務局へ確認するか、次回の審議で意見を出してほしい。</p>

(2) その他

部会長	<p>(2) その他について、事務局から何かあるか。</p>
事務局	<p>骨子案については、6月の1か月間、パブリックコメントを実施する予定。</p> <p>次回開催は、6月2日(火)午後2時から、佐久市役所6階602会議室となり、第三次佐久市総合計画における各施策の取組内容及び第二次佐久市総合計画後期基本計画の進行管理として、第4章の保健・福祉分野に係る審議を行う。</p> <p>昨年度も御審議いただいた進行管理については、資料は事前に配布し、当日の説明は割愛させていただく。</p> <p>次期計画の取組内容を中心に説明させていただき、進行管理も含めた質疑応答を行う予定。</p>
部会長	<p>全体を通して何かあるか。</p>

委員	(なし)
部会長	ないようなので、以上で本日の全ての審議を終了とする。

3 閉会